

6月11日 [木]

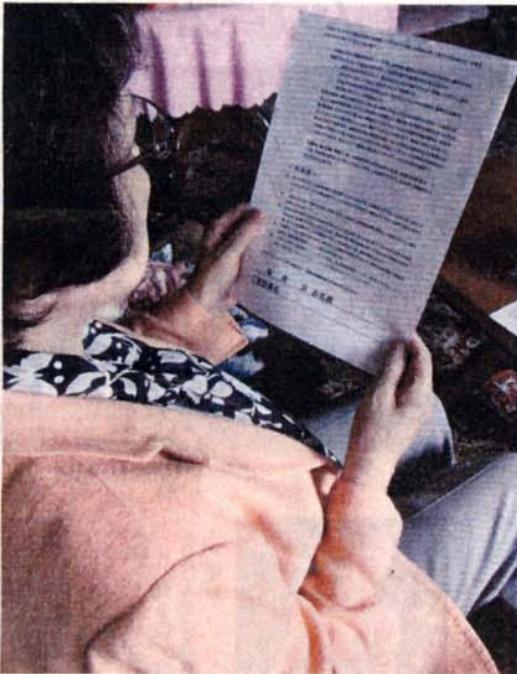


発行所 ©産業経済新聞東京本社2009年  
〒100-6071東京都千代田区大手町1-7-2  
☎ 東京(03)3251-7111(大代表)

産経新聞



生活



検査承諾書を前に「怖くて足が震えてしまった」と話す  
山口京子さん(仮名)

千葉県市川市の山口京子さん(仮名)  
は3月中旬、自治体の大腸がん検診の便潜血テストで陽性が出た。内視鏡検査ができる病院で精密検査してほしいと言った。

ゆうゆうLife



自治体や人間ドックなどで大腸がん検診を受け、精密検査が必要と言わされたら、大腸の内視鏡検査を受けなければいけない。しかし、この検査、胃カメラ以上につらく苦しいとされ、高齢者は受診をためらいがちだ。また、費用が分かりづらいとの指摘もある。高齢者と大腸がんの精密検査について解説する。

(清水麻子)

- ・胃カメラより苦しいけど
- ・費用が分かりづらいけど
- ・大量の下剤を飲む…けど

千葉県市川市の山口京子さんは勇気を出して、東京都内のある医療機関に相談したが、さらなる難題につかって。検査前に飲む約2kgの下剤が原因で亡くなる」ともあるというのだ。

千葉県市川市の山口京子さんは勇気を出して、東京都内のある医療機関に相談したが、さらなる難題につかって。検査前に飲む約2kgの下剤が原因で亡くなる」ともあるというのだ。

立派な病院に行くべきか、費用はどの程度かかるのかなど詳細な説明はなく、分からぬことだらけだった。しかし、このまま放置し、もしもがんだったら嫌だ。

山口さんは勇気を出して、東京都内のある医療機関に相談したが、さらなる難題につかって。検査前に飲む約2kgの下剤が原因で亡くなる」ともあるというのだ。

立派な病院に行くべきか、費用はどの程度かかるのかなど詳細な説明はなく、分からぬことだらけだった。しかし、このまま放置し、もしもがんだったら嫌だ。

立派な病院に行くべきか、費用はどの程度かかるのかなど詳細な説明はなく、分からぬことだらけだった。しかし、このまま放置し、もしもがんだったら嫌だ。

## 信頼性高い内視鏡

大腸がんの精密検査の費用は分かれづらい。医療保険制度に詳しい医業経営コンサルタントの秋元聰さんによると、精密検査の種類や実施施設などによって、医療保険が適用にならない場合があるので注意が必要だという。

秋元さんによると、大腸内視鏡検査は「がんの疑いがある」とされる段階から医療保険が適用になる。1回でも便潜血テストで陽性になれば、75歳以上の自己負担額(1割)は、約2000円にプラスして薬代がかかる程度という。ただし、病院併設の検査センターなどは医療保険で請求できない場合があり、自費適用されるか確認してほしい」と秋元さんによると、「がんの疑い」では全額が認められる可能性も。「車前に保険が適用されるか確認してほしい」と秋元さんは「体調や年齢などその人に適した検査方法、内視鏡に熟練した医師などの情報は、かかりつけ医に聞くのが一番。医療保険については都道府県の医療相談センターで確認できる」とする。

元さん。

大腸のバリウム検査や腫瘍マーカーも同様に、「がんの疑い」から医療保険が適用される。バリウム検査の自己負担額は75歳以上の場合は1000円前後、腫瘍マーカーは数百円(どちらも検査料部分の金額)。

一方、PET検査は現在、がん患者にしか医療保険が適用されていないため、「がんの疑い」では全額が自己負担となり、数万~十数万円以上と、施設により差が大きい。

秋元さんは「体調や年齢などその人に適した検査方法、内視鏡に熟練した医師などの情報は、かかりつけ医に聞くのが一番。医療保険については都道府県の医療相談センターで確認できる」とする。

## 高齢者の大腸がん精密検査

医療機関からは、下剤を飲まない検査として、①バリウム検査②血液を採取して血液中のがん細胞を見つける「腫瘍マーカー」の採血検査③特殊な装置で体を撮影してがん細胞の有無を確認する「PET検査」などの選択肢を提示された。しかし、どの検査を受ければいいか分からず、

藤井院長によると、大腸がんは早期であれば、ほぼ100%近く完治する。しかし、進行がんでも自覚症状は少なくて、症状が出たときには手遅れという場合も多いという。

平成19年の厚生労働省の調査では、女性のがん死の部位別トップ(全年齢)は大腸がんだった。

藤井院長は「高齢者でも、一度でも陽性が出た場合は積極的に内視鏡検査を受けるべきだ」と述べ。下剤の使用については、「確かに大量の下剤を飲み、腸が破れることが100万人に一人と非常にまれがある。これは飲む下剤の量を少なく工夫したり、院内で様子を見ながら飲んでいることで危険性は回避できる」と指摘。そのうえで、「最近は医師の内視鏡操作技術が向上し、検査時の鎮痛剤などを工夫もされている。苦痛を感じず検査が受けられる病院やクリニックも増えている」とアドバイスする。